

「謙譲の美德」と「寛容の精神」～「菜根譚」より

世に処するに一步を譲るを高しとなす、歩を退くるは即ち歩を進めるの張本なり。人を待つに一部を寛くするはこれ福(さいわい)なり。人を利するは実に己を利するの根基なり。

洪 自誠

今月は、このブログで以前にもご紹介した「菜根譚」から、他の箴言をご紹介したいと思います。冒頭にある箴言の大意ですが、「世渡りをするには、先を争うとき人に一步譲る心がけを持つことが尊い。この自分から一步を退くことが、とりもなおさず後に一步を進める伏線になる。人を遇するには、厳しすぎないように、一分は寛大にする心がけを持つことがよい。この人のためにすることが、実は自分のための土台となる。」(今井宇三郎訳注「菜根譚」岩波文庫より)となっています。前段は「謙譲の美德」を、後段は「寛容の精神」を説いたものと思われます。

さて、「謙譲の美德」についてですが、これは個人的な感覚で、明確な根拠はないのですが、余裕のない、世知辛い世情を反映してか、この美德が、近年非常に廃れてきているような印象を持っています。例えば、かつては、交通標語なども、「譲り合いの精神」を強調するものが多かった気がします。最近は何かにリスクを回避するかといったものが主流のような気がしています。社会情勢を反映して「譲り合いの精神」を強調しても、残念ながら多くの人の心に響かないということなのかもしれません。

交通安全に関して、もう少しお話しさせていただくと、最近、自転車の交通マナーの悪化が社会問題化しています。警視庁の統計ですが、令和4年の自転車の違反行為は約3万件となっており、中でも、この3年間、自転車による人身事故が増加傾向にあるとのこと。違反の内訳ですが、信号無視が全体の約6割と最も多くなっています。これは個人的な経験ですが、以前青信号で横断歩道を渡っている時に、信号無視の自転車に衝突されそうになったことがありますし、自転車による死亡事故のニュースも実際に目にするところです。このような事態に対応するため、様々な交通安全教育や違反の取締等がもとより重要ではありますが、根本的には、多くの人が、もう少し周囲への配慮や気配り、そして譲り合いの気持ちを持つことができれば、より安全で暮らしやすい社会となるのではないかと思います。

ところで、パワハラやセクハラ等に加え、近年、カスタマーハラスメント(カスハラ)が大きな社会問題となっていますが、これには「寛容の精神」の衰退も影響していると思われる。ミス等に関し、社会常識の範囲を逸脱して、逃げ場のないくらいに他者を追い詰めることが、カスハラ等に繋がるわけですが、「一分は寛大にする心がけ」を多くの人が持てるようになれば、カスハラ等も今よりは減るのではないのでしょうか。

ちなみに、日本には、古くから「情けは人の為ならず」という諺があります。この諺は、本来、「人に情けをかけることは、その人のためでなく、いつかその情けが自分に返ってくる」ということを説くものであり、他者に温情をかけることを推奨するものです。ところが、以前何かで読んだのですが、「情けをかけることはその人の為にならないのです。べきではない」と真逆に解釈している人がかなりいるようです。これは、「自助自立」を強調する現代社会の風潮を、ある意味反映したものと言えるかもしれません。

令和6(2024)年 11 月



一般財団法人 かながわ水・エネルギーサービス
理 事 長 松 井 聡 明